【第|部】

加東市の部活動地域展開について

加東市教育委員会

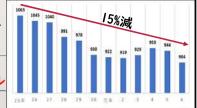
2.加東市のこれまでの取組

- ・令和5年度より、「部活動あり方検討委員会」を立ち上げ、有 識者・市内各団体・保護者・教員代表を交えて、今後の部活動 の在り方について検討しています。
- ・部活動指導員を令和2年度から配置し始め、初年度は2名配置。令和6年度は18名、令和7年度は、現在は22名配置し、 部活動指導の充実を図っています。
- ・児童生徒・保護者・教職員にアンケートを取り、子どもたちの ニーズの把握、保護者の思い、教職員の現状等について調査 しました。

1.加東市の部活動を取り巻く現状

・近年、生徒数や競技人口の減少に よって学校単位での活動や大会へ の参加が難しくなってきた。

生徒数:(H25)I,063人→(R6)904人 合同:野球・サッカー・ソフトボール



- ・部活動は、これまで教職員の献身的な努力によって支えられてきた。
- ・専門外種目を指導したり、生徒数の減少に比例して教員数が減少し、 一人の教員が複数の部活動を担当したりしている状況。

生徒数の減少→×単独校で大会等に出場 練習するにも部員が少ない 教員数の減少→×専門的な指導 生徒のニーズに応えられない

3.アンケートから(令和6年3月実施)

【子ども】

「やってみたい」種目:格闘技、ダンス、ゴルフ、クライミング、eスポーツなど 学校部活動にないものがたくさん挙げられました。

近年、オリンピックでも新しい種目が次々と設定されています。世界的に子どもや大人の 興味や関心の広がりを感じます。





【保護者】

「今後、土日の部活動が学校の活動でなくなった場合、地域で行われるスポーツ活動・文化活動に参加させるか」の問いに、約8割が「子どもに任せる」と回答。一方、平日と休日の指導の違いや指導者の質について不安の声もありました。



令和10年総体後から、部活動 ⇒ 地域クラブ活動 何が変わるのか				
実施主体	各学校	各団体		
指導者	学校教員 部活動指導員	地域指導者		
参加者	自校の中学生のみ	〇各団体で設定 ・中学生のみの活動 ・多世代と一緒に活動		
活動場所	各学校	学校・地域の施設		
活動日数	平日・休日各 I 日 休養日を設定	各団体で設定 (ただし、市の認定団体は活動条件あり)		
費用	部費・個人の道具費等	登録費・傷害保険料・月会費等 個人の道具費等		

1.地域展開のねらい ①子どもたちが、身近でスポーツ・文化芸術活動等に継続して親しむことができる環境づくり ②子どもたちの居場所づくり ③健全育成・生涯スポーツ・生涯学習社会の実現 ④多世代との交流を通して豊かな心を育成 ⑤地域展開をとおして、地域振興・地域活性化

加東市	「地域クラブ活動	活動団体	活動内容
責任	・各活動団体 ・既存の団体 ・新設の団体	認定団体K 【向上型】	中学生を中心とした活 動をする団体
想定団体	・部活動から移行した団体 ・企業 ・地域住民 / 地域指導者 ・大学 など	認定団体T 【交流型】	多世代が活動する中に 中学生も参加する団体
支援 (検討中)	・活動にかかる財政的支援 ・施設の優先利用	認定活動C	様々な体験活動を通し てレクリエーションを
認定要件	・地域クラブ活動運営方針 に則った活動	【参加型】	目的とする活動



